

ほっこり ウィークリー

(毎週金曜日発行)

64号
2021
10.1

京都府立植物園

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町
TEL 075-701-0141 FAX 075-701-0142
<http://www.pref.kyoto.jp/plant/>

園内で野鳥の死骸を発見されましたら、鳥インフルエンザの疑いもありますので絶対に触らずに職員や各門へお知らせください。



行事予定と今週ぜひ観ていただきたい植物の情報をお届けします！

※休園日は、年末年始(12/28~1/4)だけです。

※ 京都府立植物園公式ツイッターアカウント始めました！見頃の植物情報を中心につぶやいています。



第23回 秋の京都盆栽展 **中止!!**

- 期間：10月1日(金)～10月4日(月)
- 場所：植物園会館1階展示室 *販売あり
- 内容：実もの盆栽を中心に盆栽約100点を展示
- ◆10/3(日) 秋の京都盆栽展開連講習会
植物園会館2階研修室 13:30～15:00 (受付13:00～)
「盆栽なんでも相談」※定員：先着60名
持ち込み可(盆栽、鉢、水石に限る)
講師：京都盆栽会会員

第40回 秋の山野草とした展 **中止!!**

- 期間：10月8日(金)～10月11日(月)
- 場所：植物園会館1階展示室
- 内容：秋の山野草及びシダ類約300点を展示
- ◆10/10(日) 秋の山野草とした展開連講習会
植物園会館2階研修室 13:30～15:00 (受付13:00～)
「テンナンショウの植え付けの実践指導」
※定員：先着30名
講師：京都山草会会員

第54回 秋のバラ展

- 期間：10月15日(金)～10月17日(日)
10:00～17:00 (最終日は16:00まで)
- 場所：植物園会館1階展示室
- 内容：バラの切り花約90点を展示
- ◆10/17(日) バラ展開連講習会
植物園会館2階研修室 13:30～15:00 (受付13:00～)
「植物園のバラを楽しむ」
※定員：先着30名
講師：京都ばら会会員

東洋蘭講演相談会

- 日時：10月17日(日) 13:30～15:30 (受付13:00～)
- 場所：植物園会館2階多目的室 ※定員：先着60名
- 内容：寒蘭、春蘭など東洋蘭全般の栽培を中心とした講習会
- 講師：東洋蘭洛風会会員

第55回 菊花展

- 期間：10月20日(水)～11月15日(月)
- 場所：大芝生地特設展示場、正門前、植物園展示場
- 内容：大菊、小菊(懸崖作り、盆栽作り)等約300鉢を展示(販売あり)

第4回 秋の洋ランと着生植物展

- 期間：10月21日(木)～10月25日(月)
10:00～16:00
- 場所：観覧温室特別展示室
- 内容：秋に咲く洋ラン約200鉢とシダ類等の着生植物を展示(販売あり)
- ◆【植え替え実演会】
○日時：24日(日)を除く毎日、13:30～
○場所：観覧温室特別展示室
○講師：京都洋ラン研究会会員及び植物園職員
○定員：各日20名

「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説！
毎週土曜日は・・・
植物園会館前集合：午後1時スタート！

「植物園ガイド」が植物案内！
～見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増！～
① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象
② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)
③ ガイドは1時間程度。(無料)
* 申込先：京都府立植物園 TEL 075-701-0141

植物園芸相談

- 毎週 日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時
- 電話075-701-0141

※年間パスポート好評発売中

- ・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです！
大人1000円 高校生750円
- ・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。
※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP!



スマホdeガイド

QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定!

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成! ‘おすすめ樹木めぐり’ ‘おすすめエリアガイド’などをスマホで確認し、植物観察!

今週の「探して！」

2021. 10. 1
64号

⑫ パラミツ

クワ科。インドからバングラデシュが原産。雌雄同株。キノコバエの仲間が花粉を運ぶ。果実は長さ70cm、幅40cm、重さ40～50kgに達することもあり、世界最大の果実と言われる。英名では「Jack fruit (ジャックフルーツ)」。

⑪ フジバカマ

キク科。関東以西から九州などに分布。秋の七草として知られる。アサギマダラなどのチョウをはじめ、多くの訪花昆虫が花の周囲を優雅に舞う。かつて京都府内では絶滅したと考えられていたが約20年前に西京区大原野で発見された。

⑩ オヒルギ

ヒルギ科。奄美大島以南の琉球列島から東南アジアなどに分布。マングローブ林の代表的樹種の1つ。花後、胚は木に付いたままで発芽し、長さ15～20cmの根を出す。種子ではなく、苗で繁殖するので、胎生の植物の1つとしても有名。

⑨ ノゲイトウ

ヒユ科。原種はインドに自生。属名のCelosia (セロシヤ)はギリシャ語の「keleos (燃やした)」に由来し、その花が焼けたように赤く乾燥していることによる。園芸品種が多く作り出されており、属名の「セロシヤ」で流通していることが多い。

① バクチノキ

バラ科。関東以西の本州、四国、九州、沖縄の暖地に分布。樹皮は灰白色で、絶えず古い樹皮が長さ数10cm程度のうろこ状に剥がれ落ち、黄赤色の幹肌を現す。これを博打(ばくち)に負けて衣を剥がれるのに例えたことが名前の由来。

② オジギソウ

マメ科。南アメリカ原産。日本へは江戸時代後期に持ち込まれたといわれている。接触、熱、風、振動といった刺激によって小葉が先端から一対ずつ順番に閉じて、最後に葉全体がやや下向きに垂れ下がる。その動作が名前の由来。

③ スイフヨウ

アオイ科。数少ないフヨウの園芸品種。早朝から咲き始め、朝は純白、昼は桃色、夕方から夜にかけてさらに色が濃くなり紅色に変化する。酔芙蓉の名は、この赤くなる様がお酒を飲んで酔っぱらったように見えることに由来。一日花。

④ オニバス

スイレン科。東アジアやインドに分布。葉や葉柄など植物全体に鋭いトゲがあるためオニと冠される。花は午前中の数時間のみ半開き程度に開花し、昼前には閉じ、2～3日で水中に沈むためなかなかお目にかかれない。

⑤ ミズアオイ

ミズアオイ科。北海道から九州、東アジアなどに分布。発生は年による変動が大きく、水田を耕起した後などに突発的に発生を見ることがある。府内では非常にまれとなり、現状では絶滅のおそれが高い。京都府では絶滅寸前種。

⑥ オトコエシ

スイカズラ科。北海道から九州、琉球列島、奄美大島、朝鮮半島などに分布。和名の由来は、オミナエシと対比させて付けられたもので、花の色が白く地味で茎や葉はオミナエシより大きく、男性的な感じがするといふところからきている。

⑧ クササンタンカ

アカネ科。熱帯東アフリカからイエメンに分布。和名は低木のサンタンカ(イクソラ)に似て草本であることに由来。最近では属名のペンタスと呼ばれることも多い。ペンタスはギリシャ語で「5」を意味する「ペンテ」に由来し、花の形にちなむ。

⑦ ダーリングトニア

サラセニア科。北米原産の食虫植物。捕虫葉の先端が丸帽子状になるのが特徴。帽子状の下部には穴が開き、その前には魚の尾ひれのような付属物がつく。この形が金魚のランチュウに見えることで、ランチュウソウの異名を持つ。

